

2022年（令和4年）4月26日（火曜日）第20814号

272 人數元上升傾向

出南朝口

岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1
代 表 (0544) 28-0200
F A X (0544) 28-0218
編 集 (0544) 28-0234
営 業 (0544) 28-0220
月977円 1部60円

皆様に愛され、ともに生きる
MS. AD

皆様に愛され、ともに生きる

● 吉 原 (054-5)	植 案 新聞店	☎(52)0370 安倍新聞店	☎(7)33217
● 鈴木新聞店	☎(52)5503 SHO 鷹印	☎(7)8150647	● 鈴木川 (054-5)
中野新聞舗	☎(52)037-6 鈴木新聞店	☎(7)2647	
ツタウエル	☎(26)1100 雨森新聞舗	☎(61)5049 石井新聞店	☎(8)13332
SHO 南部新報	☎(23)3333 田畠新聞店	☎(61)0011 松野新聞販売所	☎(85)20099
中西新聞店	☎(28)1-133 星野新聞堂	☎(61)0275	

リフォーム専門店
富クーポン

間で予算枠に達する人気の事業となつてゐる。

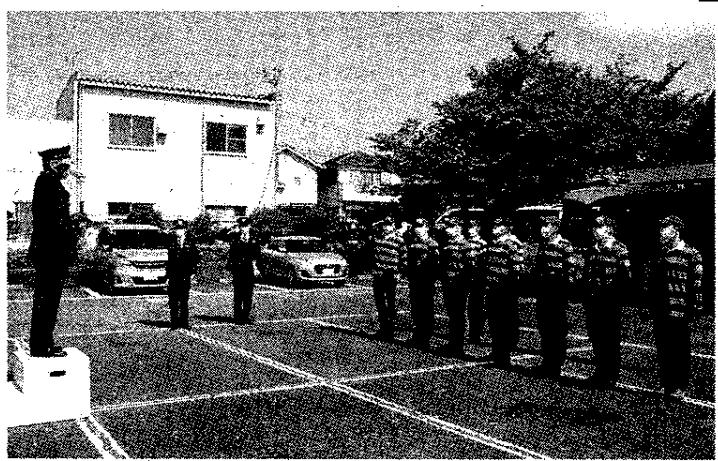
富士宮市内の1週間の新規感染者数は、止まりから上昇を示している。直近1週間（18・24日）規感染者は272人で、先週に比べても増加。2月中旬よりの水準を止まりの水準を取り戻し、予断を許さない状況が続いている。

直近1週間の新規感染者を年代別にみると、「10歳未満」が最も多く全体の2%を占め、前週（17日）に比べて比は2ポイント上った。次いで「40歳代」が47人（構成比17%）、「20歳代」が35人（同16・5%）、「10歳代」が30人（同12・9%）、「30歳代」が34人（同12・5%）、「50歳代」が30人（同11・0%）などとなっている。

市内の新規感染者全体で見ると「20



富士宮警察署（佐野救助隊指名式が25日信浩署長）の山岳遭難同署で行われた。地域



出発式であいさつする佐野署長

が全体の半数占め
が上がる中、今週か
ゴー^ルデンウイーク
突入する。国は感染
対策の徹底を促し
らも規制はない
だが、市では対策

元上昇傾向

て「不織布マスクの着用、手指の消毒、密を避ける、飲食は普段一緒にいる人たちと少人数・短時間で、不要不急の外出は控え、気を緩めることなくしっかりと基本的な注意事項を守り、毎日を過ごしてください」と呼びかけている。

同署は管内の富士登山客や観光客の山遭難の発生に備えた業務に当たっており、一ルデインウイーク前

長が新たに指名した沖谷光博巡回部長に指名書を交付した。

山岳遭難救助訓練出発式では静岡県警山岳遭難救助隊の武藤諭副隊長の号令の下、整列した隊員を前に佐野署長が「今年は昨年以上の登山客が見込まれ、軽装登山をはじめ転倒や体調不良による山岳遭難事故が懸念される。新隊員は管内の登山道や危険箇所、気象状況といった基礎的知識を通じて救助の方法についての技術を磨いてほしい。関係閣と緊密な連携の訓練を通じて安全対策を徹底し、山岳遭難事故が発生した際は災害の未然防止とともに迅速的確な救助活動を願う」と訓示した。引き続き隊員らは助機材の操作訓練を富士宮市佐折地先の者ヶ丘で登山技術の上と要救助者の搬送練を実施した。

農業体験を呼びかける会員ら

農業体験では、希望者が市内農園のよう

て、機材、や機械、事務局も次回も活動を

する。また、春に変わった山はまだ冬の気候で冬山装備が必要。安全な備えについて指導と広報活動を展開して、迅速的確な救助に取り組む」と決意を述べた。

沖谷巡査部長は「念

富士宮市は25日までに、2022年度住宅リフォーム（一般・子育て・3世代同居）宮ケーポン事業が予算枠に達し、今年度の受け付けを終了したと発表した。子育て・3世代同居を先行して18日から受け付けし、一般的を受け付け初日の20日に

予算枠に達した。これにより20日受け付け分は抽選となり、結果は5月上旬までに申請者に郵送する。

同事業は、市内事業者に依頼して住宅リフォーム（工事金額30万円以上）を行う市民を対象に、市内の商店・小売店舗などで使用で

今年度の受付終了

住りリフォーム 宮ケーポン